

セブン-イレブン 駅に500店

JR西と 業務提携 キヨスクなど衣替え

セブン-イレブン・ジャパンとJR西日本は27日、業務提携契約を締結し、北陸、近畿、中国地方などのJR駅構内の売店約500店をセブン-イレブンに切り替えること発表した。JR西のグループ企業が経営するキヨスク約300店とコンビニ「ハート・イン」約200店をそれぞれ「セブン-イレブン キヨスク」「セブン-イレブン ハート・イン」に衣替えする。セブン-イレブン・ジャパンの持ち株会社であるセブン&アイ・ホールディングスなどによると山陰両県の14駅にあるハート・インなども対象になる。

山陰両県は14駅対象

コンビニの飽和状態が指摘される中、セブン-イレブンはJR駅の店舗網を取り込み、西日本で一気に規模拡大を図る。JR西はセブン-イレブンのブランド力を活用し、利用客を伸ばす。

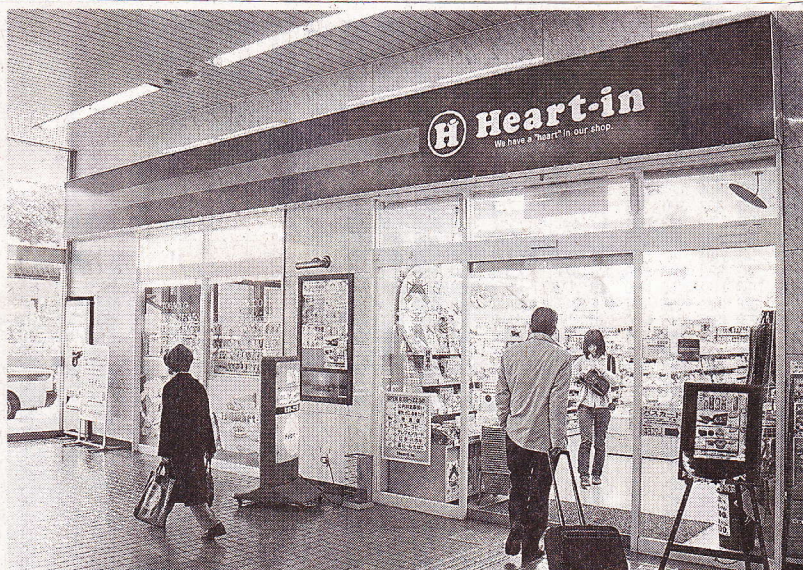
それぞれ1店を出す。5年間での切り替えを完了させる。山陰両県では島根県に安来、松江、宍道、出雲市、大田市、江津、浜田、益田の8駅に、鳥取県は岩美、鳥取、倉吉、米子、根雨、生山の6駅にハート・イン

パンの井阪隆一社長は記者会見で、JR西の駅利用客が1日500万人に上ると指摘し「駅は生活の核。働く女性に便利と感じてもらおうサービスを目指す」と強調した。近畿、北陸、中国地方の店舗数は今年2月末現在、ローソンが3262店でトップ。セブン-イレブンが3159店でそれに次ぐ水準。JR西の店舗数を単純に加えれば、セブン-イレブンが逆転する。

やキヨスク、両者の中間型店舗「デイリーイン」があり、全店舗がセブン-イレ

まず6月上旬に京都駅に2店と岡山駅、山口県の下関駅、新幹線の博多駅にそ

り、全店舗がセブン-イレ



JR松江駅の構内にあるハート・イン松江店。セブン-イレブンへの切り替え対象になっている一松江市朝日町